

霧島火山の地震活動について*

東京大学地震研究所

高千穂峰御鉢火口付近のB型地震活動

本会報第9号に報告して以来、御鉢火口付近の地震活動は消長を続けながらも、次第に衰退に向いつつある。1976年10月から始まったこの地震活動は、本年6月現在で、9か月続いたことになる。この間、やや深いと思われる地震は見当たらない。

この御鉢の地震活動と、加久藤カルデラの地震活動との時間的關係に面白い事実があることに注意したい。すなわち、1968年2月のえびの地震が加久藤カルデラに発生して約1年後の1969年3月から、今回と同様に御鉢に浅い火山性地震が発生している。同様に、1975年9月末から発生した飯野付近の群発地震（連絡会報第9号参照）の後、約1年たって、1976年10月から御鉢に浅い地震が群発したのである。

2回の事例に過ぎないが、カルデラの地震が発生して1年後に御鉢に浅い火山性地震が群発していることは興味深い。

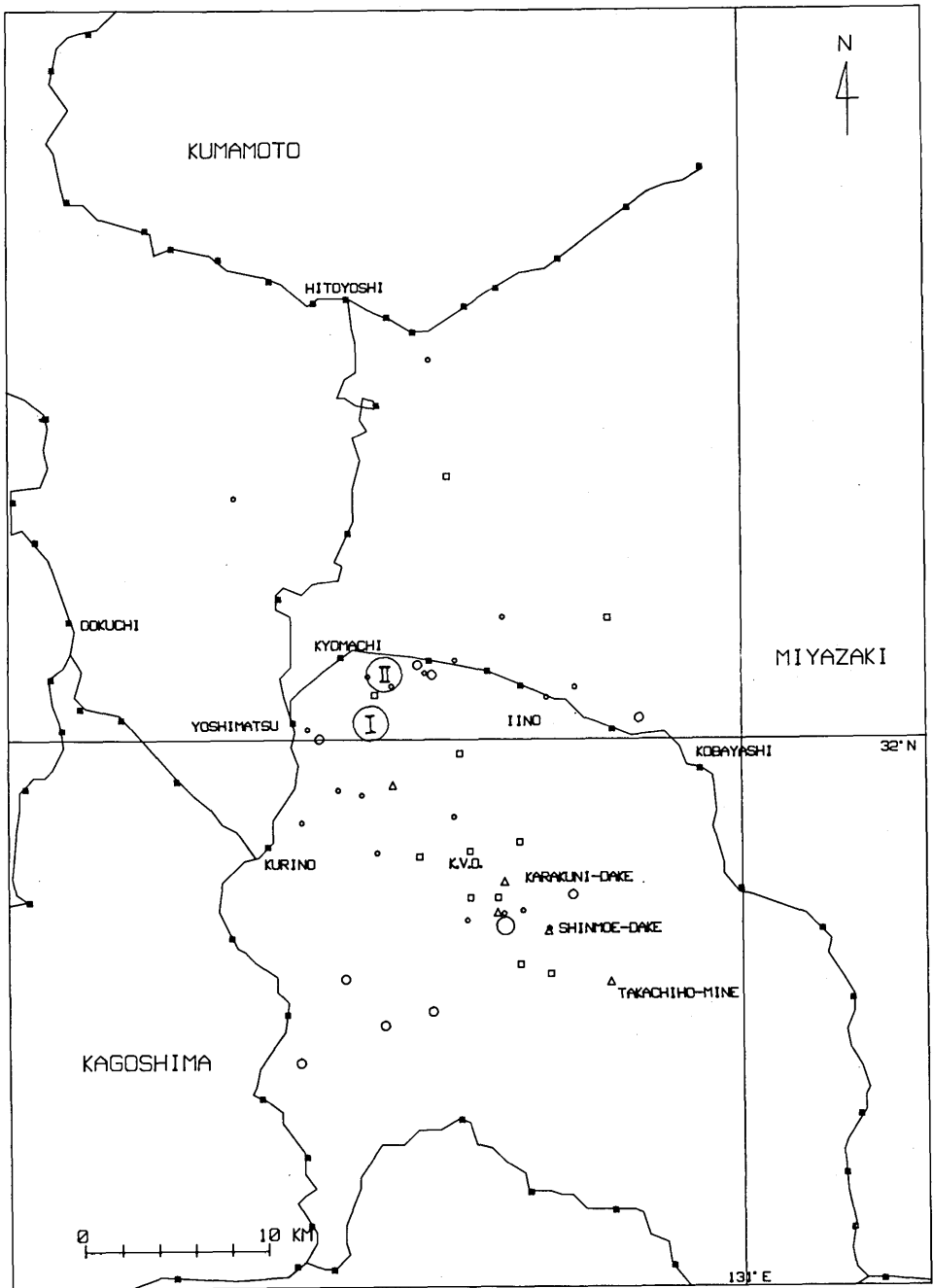
霧島山周辺の地震活動

前回報告以後の霧島山周辺の地震活動のうち、顕著なものは、3月26、27日に、京町付近に発生した有感地震である。それらの地震は次のとおりである。

Earthq.No.	Origin Time (JST)	Magnitude	Focal Depth
I	05h 21m 29.0s, Mar. 26, 1977	3.0	10.6
II	05h 59m 49.8s, Mar. 27, 1977	3.5	4.6

1977年1月1日より3月27日までの震央（御鉢の地震を除く）をプロットすると第1図のようになる。

*Received July 15, 1977



第1図 1977年1月1日～3月27日間の霧島山周辺の地震の震央分布。
御鉢に発生している浅い群発地震を除く。